

## 『平成26年度豊かな体験活動推進事業』活動報告書

【豊かな体験活動推進事業 推進校】

### 豊かな体験活動推進事業における宿泊体験活動 山口県美祢市立伊佐中学校

#### 学校の概要

##### ① 学校規模

- 学級数：5学級  
(内特別支援学級2学級)
- 生徒数：69人
- 教職員数：13人
- 活動の対象学年：1年生・24人

##### ② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 県の中西部に位置し、緑豊かな山に囲まれている。保護者は協力的で、学校行事や各種体験活動(学年活動)等に積極的に参加される。また、地域もコミュニティ・スクールの学習支援やゲストティーチャー等で協力体制が整っている。
- 本校生徒は、1つの小学校から1つの中学校に入学するため、人間関係が固定化されている。そのため、自分の思いや考えを集団の中で伝えたり、発揮することに戸惑いを感じ、消極的になっている生徒が多い。

##### ③ 連絡先

- 〒759-2222  
山口県美祢市伊佐町伊佐4616
- 電話：0837-52-0307
- FAX：0837-52-1608
- ホームページ  
<http://www.c-able.ne.jp/~isa-j/>
- 電子メール  
isa-j@c-able.ne.jp

#### 体験活動の概要

##### ① 活動のねらい

- 宿泊体験学習を通して、生徒の社会性や豊かな人間性を育てる。
- 農漁村の自然や人々との交流の中で、働くことの意義やすばらしさ、重要性について学ぶ。
- 自主自立的な共同生活を通して、規律ある生活態度と集団生活の基本を身に付ける。

##### ② 活動内容と教育課程上の位置付け (単位時間数・日数)

- 事前指導  
(総合的な学習の時間 4単位時間、学級活動 1単位時間、道徳 1単位時間)
- 集団宿泊体験活動  
(総合的な学習の時間 6単位時間)  
山口県長門市俵山地区  
(長門市観光コンベンション協会)
- 民泊体験学習  
(総合的な学習の時間 10単位時間)  
山口県長門市通地区  
(長門市観光コンベンション協会)
- 事後指導  
(総合的な学習の時間 2単位時間、学級活動 2単位時間)

## 1 活動に関する学校の全体計画

### (1) 活動のねらい

- 宿泊体験学習を通して、生徒の社会性や豊かな人間性を育てる。
- 農漁村の自然や人々との交流の中で、働くことの意義やすばらしさ、重要性について学ぶ。
- 自主自立的な共同生活を通して、規律ある生活態度と集団生活の基本を身に付ける。

### (2) 全体の指導計画

活動時期・期間	実施する体験活動の概要	教科・領域	
4月中旬～ 5月中旬	<b>【事前学習】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 宿泊体験学習の概要・目的</li> <li>○ 宿泊体験学習タイムテーブル</li> <li>○ 宿泊体験学習のきまり</li> <li>○ 俵山、通についての調べ学習</li> <li>○ 宿泊体験学習のテーマ（クラス、個人）</li> <li>○ マナーについての学習</li> </ul>	総合的な 学習の時間	4 単位時間
5月20日～ 5月23日	<b>【集団宿泊体験学習・民泊体験学習】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ トレッキング</li> <li>○ 温泉入浴体験</li> <li>○ 金子みすゞ課外授業</li> <li>○ 入村式</li> <li>○ 漁業航行体験</li> <li>○ クジラ文化体験まちあるき</li> <li>○ 民泊滞在先家庭との対面式</li> <li>○ 波止場釣り体験</li> <li>○ 魚さばき方体験</li> <li>○ 通まちあるき</li> <li>○ A F P Y</li> <li>○ 退村式</li> </ul>		
5月下旬	<b>【事後学習】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 宿泊体験学習の反省・感想</li> <li>○ 民泊滞在先家庭への礼状</li> </ul>	学級活動 総合的な 学習の時間	1 単位時間 2 単位時間
10月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 宿泊体験学習の発表</li> </ul>	総合的な 学習の時間	1 単位時間

## 2 活動の実際

### (1) 事前指導

#### ① 保護者の不安解消のために

5月20日から初めての試みである宿泊体験学習を行うために、2月の入学説明会のときに、保護者に宿泊体験学習についての説明を行った。また、学年懇談会や家庭訪問で、不安に思ったことや配慮してほしいことなどの質問を受け、長門市観光コンベンション協会と連絡を取り合いながら保護者へ説明を行った。

#### ② 宿泊体験学習のテーマ、きまりについて

小学6年生のときに修学旅行でテーマやきまりについて話し合っている経験を生かして、総務委員を中心にテーマ、きまりについて話し合わせた。教師は、オブザーバーとしての立場でその話し合いに参加した。

##### クラスのテーマ「えだまめ24」

え・・・笑顔                      だ・・・団結                      ま・・・マナー（礼儀）  
め・・・メリハリ                      24・・・クラスのみんなで

#### ③ 民泊体験について

初めての民泊体験であるため、対面式での自己紹介の仕方や、(家族構成にあった)夜の過ごし方等、実際の活動を想定したシミュレーションを各グループで行った。また、風呂に入るときや食事等についても、道德の時間にマナーや気配りについて学習した。

### (2) 活動の展開（プログラム）

5月20日（火）		5月21日（水）		5月22日（木）		5月23日（金）	
8:30	中学校集合	6:30	起床		滞在先家庭で朝食		滞在先家庭で朝食
9:00	中学校出発	7:00	朝食	8:30	小浦埋立地に集合	8:40	通漁協に集合
10:40	能満寺到着	8:50	バス乗車	8:40	波止場釣り体験	9:00	A F P Y
10:45	トレッキング	9:28	J R長門湯本駅発	10:30	魚さばき方体験	11:00	退村式
12:00	昼食	9:35	J R長門市駅着	12:30	昼食	12:30	中学校到着
13:30	路線バスで俵山温泉	9:45	金子みずゞ課外授業	13:30	通まちあるき	12:40	給食
14:00	俵山温泉の歴史	12:10	仙崎出発	15:30	滞在先家庭へ移動	13:35	5校時（自主研修 のまとめ等）
15:00	温泉入浴体験	12:30	通漁協魚市場到着			15:00	下校
16:05	旅館		歓迎式、昼食				
18:00	夕食	14:00	A班：漁業航行体験、クジラ文化体験				
19:00	しおりに1日の反省		まちあるき				
21:30	就寝準備		B班：A班と逆				
22:00	就寝、消灯	15:40	民泊滞在先との対面式				
		15:50	滞在先家庭へ移動				



トレッキング



金子みすゞ 課外授業



漁業航行体験



波止場釣り体験



魚さばき方体験



A F P Y

### (3) 事後指導

#### ① 民泊滞在先家庭への礼状

民泊で2日間お世話になった滞在先家庭に、心に残ったことや自分の思いを文章に表し、感謝の気持ちを伝えるという指導を行った。

#### ② 宿泊体験学習の発表

10月25日の校内文化祭で、全校生徒や保護者、地域の人々に、今回体験したことや心に残ったことを発表した。

## 3 体験活動の実施体制

### (1) 学校や受入地域の支援体制

① 学校・・・校長、教頭、教諭（学年担当3人）、養護教諭

② 受入地域・・・能満寺住職、俵山温泉観光協議会、金子みすゞ記念館、くじら資料館館長、通鯨・ツーリズム推進協議会

（主に、長門市観光コンベンション協会と事前打合せを行い、支援体制を整えた。）

### (2) 配慮事項等

① 家庭訪問で、健康上配慮して欲しいことがらについて話をした。また、事前に食物アレルギー、動物アレルギーについての調査を行った。その結果については、長門市観光コンベンション協会を通じて、滞在民泊先に事前連絡を行った。

② 女子生徒に対する指導は、養護教諭が学級活動の時間に行った。

③ 民泊時の夜間の緊急時については、同市内に実家のある養護教諭と在住の副担任が窓口となり、対応に備えた。

#### 4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

##### (1) 体験活動の評価の工夫

活動ごとに宿泊学習のしおりにメモをさせ、その日の夜に十分な時間を取り、自分の活動を振り返らせ、反省を行わせた。

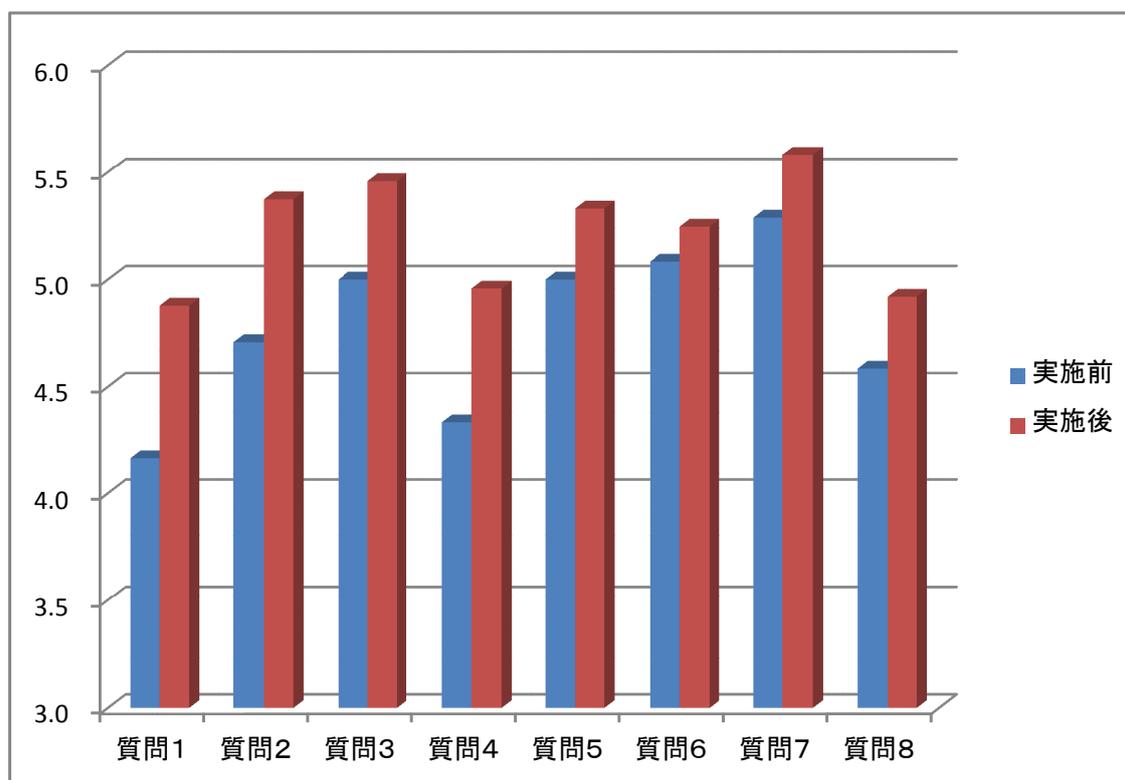
##### (2) 指導の改善

生徒の反省結果を集計して生徒に返し、生徒自ら今回の宿泊体験学習を振り返らせることで、これからの生活に生かすように指導した。

#### 5 活動の成果と課題

##### (1) 生徒の変容

- 質問1 いやなことは、いやとはっきり言える。  
 質問2 自分から進んで何でもやる。  
 質問3 だれとでも仲良くできる  
 質問4 先を見通して、自分で計画を立てられる。  
 質問5 人の話をきちんと聞くことができる。  
 質問6 自分勝手な、わがままを言わない。  
 質問7 自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる。  
 質問8 早寝早起きである。  
 (6…非常にあてはまる 5…よくあてはまる 4…ややあてはまる  
 3…どちらでもない 2…あまりあてはまらない 1…あてはまらない)



	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8
実施前	4.17	4.71	5.00	4.33	5.00	5.08	5.29	4.58
実施後	4.88	5.38	5.46	4.96	5.33	5.25	5.58	4.92
変化率	0.71	0.67	0.46	0.63	0.33	0.17	0.29	0.33

この調査結果から、

- 質問 1、2、3 が大きく伸びている。特に、質問 1 「いやなことは、いやとはっきり言える。」が大きく伸びている。
- 上記のことから、自分の立場をしっかりと理解し、先を見通して計画的に実行に移せ、できないことはできないと自分の意志を表現できるようになったことがわかる。
- すべての質問項目において伸びており、今回の民泊体験学習を含む体験活動は、これまで多くの学校が実施している青少年宿泊施設を利用した活動と異なり、多くの人達と出会い、コミュニケーションをとることにより、生徒に及ぼす教育効果がより高くなったと考えられる。

## (2) 今後の改善の取組

体験活動がいかに教育効果が高いものであるかが、今回の民泊体験学習からわかった。そこで、この時期に実施している 3 年の修学旅行、2 年の職場体験学習と合わせて、1 年もこの民泊体験学習をキャリア教育の一環として、3 年間を見通した全校あげてのそれぞれの学校行事に位置付けたい。そして、今以上に、生徒が積極的に取り組むことができるように、できるだけ生徒たちの手で企画・運営させていきたい。また、コミュニティ・スクールの観点から広域にわたる地域人材を活用することで、生徒の視野を広げるとともに様々な分野の活動の場を多く取り入れていき、保護者、地域を巻き込みながら、子どもたちの豊かな人間性の育成をめざしたい。今後、伊佐中学校の特色ある学校づくりの目玉の行事として定着を図り継続的に実施していくためには、民泊体験学習に係る費用の捻出が課題であり、保護者負担軽減の努力が必要になってくるであろう。